令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	１年・NAiSU	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・人にはいろいろな感情があることを理解し、自分の感情を表情や態度で表現することができる。
実施した内容	・ソーシャルスキルトレーニングを活用し、自分の気持ちへの対処・対応の仕方を学ぶ。 ・展開の前半において、学級全体で感情に合う表情づくりを行いながら、自分の感情を態度や行動で示す方法を考える。 ・展開の後半ではカードに描かれている表情に合う感情を、言葉、表情、態度などを使って表現するゲームを行い、自己表現の仕方を学ぶ。
工夫した点	・授業の約束を確認し、互いの意見を尊重し合う雰囲気づくりを行った。 ・授業の導入部分では絵カード(嬉しい、悲しい、怒り、困る)を使用し、カードに合う表情をつくりながら、鏡を見て自分の表情を確認する時間を設けた。 ・相手に自分の感情を伝えるために必要なことは何かを問い、表情や動き、声色などを意識してゲームを行うことができるようにした。 ・後半のゲームの中では、上手く感情が伝わらなかった場合でも、肯定的な言葉掛けをし、楽しんで取り組めるようにした。 ・態度や表情を使って表現できている児童を取り上げ、感情をより正確に伝えるために大切なことは何かを確認したことで、相手の表情にも気を配りながら活動できるようになった。 ・振り返りの際には、気持ちの伝え方は人それぞれ違うということにも触れた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・全ての教育活動において、「自分の気持ちを相手に伝えることの大切さ」を意識しながら、相手の気持ちにも寄り添って生活できるよう指導した。
事業成果	１年生（１４名）を対象としたアンケートから ・知識的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか」に対し肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００%→事業終了時：１００% 【児童変容の分析】 授業の中では相手の表情にも気を配りながらゲームを行った。人にはいろいろな感情があること、感情を理解することの大切さに気付いた。 ・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、「している」と回答をした児童の割合 事業開始時：８５．７%→事業終了時：７８．５% 【児童変容の分析】 自分の気持ちを素直に伝えられるようになってきた反面、一方的に伝えるだけになっている児童もいる。相手の気持ちにも気を配り生活できるよう、引き続き指導していく。 ・技能的側面：「自分の気持ちを伝えることはできていますか」に対し肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：８５．７%→事業終了時：９２．８% 【児童変容の分析】 楽しい、嬉しいなど、肯定的な気持ちだけでなく、不安、悲しいなどの気持ちも相手に伝えることが大切だということを伝えた。喧嘩や揉め事が起きたときにも、自分の気持ちを伝え合い、自分たちで解決しようとする態度が見られるようになった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	女性	対象学年・取り扱った教科等	４年・体育	時数等	４時間

目標・人権教育のねらい	・体の発育・発達、思春期の心や体の変化、よりよく成長するための生活について理解することができる。 ・男女で体の変化に違いがあること、体の成長には個人差があることを理解し、違いを認め合おうとする心情を養う。 ・月経中の女性に対する差別について理解することができる。
実施した内容	・身長や体重など体の発育や発達について知る。（１時間） ・思春期における体の変化（変声、発毛、月経、射精など）について知る。（１時間） ・思春期における心の変化を知る。（１時間） ・体がよりよく成長するための生活（運動、食事、睡眠など）について考える。（１時間）
工夫した点	・担任、養護教諭、人権教育主任が連携して、授業づくりを行った。 ・体や心の変化には個人差があることを強調し、一人一人違ってよいことをおさえた。 ・思春期における体の変化の授業では、「プライベートゾーン」についても触れ、自分の体の大切さについて気付かせた。 ・射精や月経について説明する際は、男子と女子の体の中のイラストを用意し、体の中で起こる変化について分かりやすくした。その際、養護教諭と連携して授業を進めた。 ・実際に生理用ナプキンを見せながら使い方を伝え、男女関係なく理解できるようにした。 ・人権教育主任からは、世界や日本で見られる月経に関わる女性への差別について話をすることにより、身近なところにも差別があることに気付かせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、「相互理解、寛容」（内容項目Ｂ）の学習をする際、本学習を想起させ、お互いを理解し尊重し合うことの大切さを感じさせた。

事業成果

４年生（１７名）を対象としたアンケートから

・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」において「女性」と回答した児童の割合
　事業開始時：３７．５%→事業終了後：７０．６%

【児童変容の分析】
自分たちの身近なところでも女性に対する人権問題があることを理解することができた。

・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
　事業開始時：９３．８%→事業終了時：９４．１%

【児童変容の分析】
相手の立場に立って考え、行動することで、思いやりの大切さに気付くことができた。

・技能的側面：「自分以外の人を大切にしていますか」に対し、「している」と回答をした児童の割合
　事業開始時：８７．５%→事業終了時：９４．１%

【児童変容の分析】
授業後の感想では、「体の変化について知った。」「個人差があることが分かったので、人と違っても気にしないようにしたい。」など自分や相手の体を大切にしようとする意識が高まり、行動にも変化が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	高齢者	対象学年・取り扱った教科等	２年・生活科	時数等	１３時間

目標・人権教育のねらい	・祖父母や地域の方と交流する活動を通して、身近な人々と関わることの良さや楽しさに気付き、祖父母や地域の方に親しみをもって進んで関わろうとする態度を養う。 ・高齢者との交流会を計画、実施することを通して、高齢者に対して思いやりをもって接しようとする心情を育てる。
実施した内容	・高齢者と交流する方法を考える。（１時間） ・なかよし会（高齢者との交流会）の準備をする。（３時間） ※高齢者と交流する上で、気をつけることを考える。 ・なかよし会を実施する。（２時間） ・町探検で、地域の方とふれ合う。（２時間） ・活動して分かったこと、考えたことをまとめ、発表する。（５時間）
工夫した点	（指導上の工夫） ・高齢者の特徴（目が見えにくい、耳が聞こえにくいなど）をおさえ、どのような配慮をするとよいか考えさせた。 ・得意な昔遊びを教えてもらい、一人一人の良さを認め、高齢者に対して尊敬の念をもてるようにした。 （地域や関係機関との連携） ・社会福祉協議会や長寿会、公民館に協力を仰ぎ、地域の高齢者とも交流することができるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、「感謝」（内容項目Ｂ）の学習をする際、本学習を想起させ、高齢者を含む身近な人々が自分を支えてくれていると感じることができるよう指導を行った。

事業成果

いずれも２年生（１１名）を対象としたアンケートから

・知識的側面：「おじいちゃん、おばあちゃんはどんなことが苦手だと思いますか」に対し、高齢者が抱える困難さを具体的に回答した児童の割合
事業開始時：２７．３%→事業終了後：８１．８%

【児童変容の分析】
高齢者が生活する上での身体的な困難さについて理解を深めることができた。

・価値的・態度的側面：「自分以外の人を大切にしていますか」に対し、「している」と回答をした児童の割合
事業開始時：１００．０%→事業終了時：１００．０%

【児童変容の分析】
高齢者との交流後は、「おじいちゃんが〇〇のやり方を優しく教えてくれた。」「おばあちゃんは〇〇ができてすごい。」と、高齢者に対して尊敬の念を抱く言動があり、高齢者の優しさや技術を認めようとする態度が見られた。

・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合
事業開始時：９０．９%→事業終了時：１００．０%

【児童変容の分析】
高齢者が生活する中で、身体的な面で困難さを抱えていることに気付いた。高齢者に活動を楽しんでもらうために自分たちにできることを考える活動を通して、相手を思いやる気持ちを高めることができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	３年・道徳	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・障害のある人について理解を深め、現状や課題を知る。 ・誰もが住みやすい社会の大切さに気付くことで、障害者の人権を尊重し、思いやりや共感の心情を育てる。
実施した内容	・障害のある人について、どれくらいの知識をもっているか自分自身の現状を把握する。 ・障害のある人にとってどんなことが必要とされているのか考え、特別扱いをしないことの大切さに気付く。
工夫した点	・直接的指導として、障害者に関する資料を提示して、知識を広げた。 ・事後学習に栃木県教育委員会が作成している人権教育指導資料「人権の窓『様々な人権問題』」を活用して、障害者に関する課題や、身の周りのバリアフリーについての知識を深める時間を設定した。 ・障害のない自分自身にとっても、バリアフリーによって助けられていることに気付かせる機会を意図的に設けた。その際に、共に生きる社会の実現のために教材文の主人公のような取組をしている人がいることに気付かせ、障害のある人と共に生きる社会の実現のために自分にできることを考えさせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会科見学の学習で校外へ出かけた際に、バリアフリー化されているところを探す活動も取り入れ、身の周りのバリアフリー化に関心をもたせた。
事業成果	３年生（１２名）を対象としたアンケート結果から ・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」において「障害者」と回答した児童の割合 事業開始時：３３．３％ → 事業終了後：１００．０％ 【児童変容の分析】 直接的指導として、障害のある人とはどのような人なのか、パラリンピックについての説明と併せて指導した。それにより、障害のある人にとっても障害のない人にとってもバリアフリー化が必要であることや、障害のある人について知り、特別扱いしないことを知ることができた。 ・価値的・態度的側面：「障害のある人とはどのような人か知っていますか」に対し、「知っている」と回答をした児童の割合 事業開始時：　７５％ → 事業終了間際：１００％ 【児童変容の分析】 障害のある人に対する考えが変わった児童が増え、偏見のない関わり方が大切であることに気付くことができた。 ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：　１００％ → 事業終了間際：　１００％ 【児童変容の分析】 障害の有無に関係なく、相手の立場になって優しく親切な行動をとろうとする態度が身に付いた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	６年・社会科	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・江戸時代の身分制の経緯や時代背景について理解する。 ・差別を受けた人々の思いや願いを考えることができる。 ・差別に苦しみながらも、優れた技術や芸能を用いて、社会や文化を支えた人々の思いや願い、生き方について考える。
実施した内容	・江戸幕府の政治の方法について、資料をもとに理解する。 ・幕府がなぜ身分制を始めたのか、時代背景をもとに考える。 ・差別を受けた人々の思いや願いについて考える。 ・優れた技術や芸能はどのように生まれたのか考える。
工夫した点	・導入で、江戸時代の身分制の経緯や時代背景の概要について説明することで、関心を高めさせた。 ・身分制があったことによって社会にどのような影響を与えたのかについて考えさせた。 ・差別を受けた人々の思いや願いについてグループで話し合わせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、いじめや人種差別の問題について学習した際に、本学習を想起させ、深く理解させた。
事業成果	６年生（２１名）を対象にしたアンケートから ・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」に対し、「部落差別（同和問題）」と回答した児童の割合 事業開始時：３８．１%→事業終了後：７６．２% 【児童変容の分析】 過去の身分制と現在の部落差別（同和問題）との関連性を理解することができた。現在に至るまでの具体的な理解ができるよう、継続して取り扱っていきたい。 ・価値的・態度的側面：「正しいことを行い、よくないことを正そうとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始前：１００．０%→事業終了間際：１００．０% 【児童変容の分析】 身分制による不当な差別についての理解を深めたことで、自分自身で適切に善悪を判断しようとする記述が見られた。 ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００．０%→事業終了間際：１００．０% 【児童変容の分析】 差別はよくないことであるという意識をもつとともに、これから社会における差別を少しでも解消していきたいという記述が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	アイヌの人々	対象学年・取り扱った教科等	６年・社会科	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・明治時代の廃藩置県によって、現在に近い統治制度が整えられ、アイヌ民族の生活がどのように変わったのかを理解することができる。 ・国や地域には様々な民族が存在することを知り、それぞれの歴史と文化を理解し、尊重しようとする態度を育てる。
実施した内容	・明治時代初期の政府の政策について理解を深める。 ・北海道の「開拓」とアイヌ民族の歴史について知り、アイヌ民族への差別について考える。
工夫した点	・アイヌ語が北海道や東北の地名に残っていることから興味・関心を引き出した。 ・児童の理解を深めるために、写真や動画を用いて、様々な民族の歴史や文化を紹介した。 ・アイヌ民族にとって「開拓」がどのようなものだったかをペアやグループで話し合わせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、外国の文化について学習した際に、本学習を想起させ、お互いの文化を理解し尊重し合うことの大切さを感じさせた。
事業成果	６年生（２１名）を対象としたアンケート結果から ・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」に対し、「アイヌの人々の人権問題」と回答した児童の割合 事業開始時：５２．４%→事業終了後：８５．７% 【児童変容の分析】 アイヌ民族の歴史を知ることができた。社会科で学習する日本の歴史と、アイヌ民族の歴史を知ることで、多面的に事象を理解することが大切であると気付いた。 ・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００．０%⇒事業終了間際：１００．０% 【児童変容の分析】 アイヌ民族を始めとする様々な文化をもつ民族について理解を深めたことで、他の国の文化を認めるとともに、身近な人々においても異なる生活習慣や文化があるのではないかという思いをもち、尊重しようとする態度が見られた。 ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：８５．７%⇒事業終了間際：９５．２% 【児童変容の分析】 様々な民族の歴史や文化を受け入れるとともに、普段の生活においても自分の行動を見直していきたいという記述が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	全学年・外国語科／外国語活動	時数等	１時間ずつ

目標・人権教育のねらい	・ＡＬＴと触れ合ったり外国の文化を教えてもらったりする活動を通して、他国の文化や価値観を尊重するとともに、互いの良さや違いを認め合う態度を育てる。
実施した内容	・外国の歌や遊びを教えてもらい、一緒に楽しむ。（１・２年） ・外国の言語や生活に関するクイズを通して、子供たちが知っていそうで知らないこと、日本との違いを学ぶ。（３年） ・外国の生活様式に関する三択クイズを通して、外国と日本の違いを学ぶ。（４年） ・外国の年中行事、学校行事、食生活についてＡＬＴの先生方の話を聞き、日本との共通点、相違点を考える。（５年） ・外国の学校生活や働き方について話を聞き、日本の良さ、外国の良さを考える。（６年）
工夫した点	・町内のＡＬＴ３名に来校していただき、その日１日を「ＡＬＴとの交流会デー」とした。 ・ＡＬＴの先生方に資料作成をお願いし、多くの写真・動画資料を提示してもらった。 ・児童が楽しみながら学べるように、遊びやクイズを多く取り入れてもらった。 ・授業以外の給食や昼休みも交流できるようにした。 ・実施後は、活動の様子をホームページや人権だよりで紹介した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・各教科で「外国人」に関する学習をする際、本学習を振り返り、外国には様々な文化や価値観があることを想起させながら指導を行った。
事業成果	４～６年（４８名）を対象としたアンケートから ・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」に対し、「外国人」と回答した児童の割合 事業開始時：８４．０%→事業終了後：８４．８% 【児童変容の分析】 日本と外国では、文化や生活様式、価値観が異なることを学んだ。外国との違いを知らないために、知らず知らずのうちに偏った見方・考え方をしている恐れがあるということに気付くことができた。 全学年（８５名）を対象としたアンケートから ・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：９７．７%→事業終了時：９５．２% 【児童変容の分析】 日本とは異なる外国の文化や生活に関心をもち、進んで親しもうとしていた。外国の文化を知ることが主な活動だったため、ＡＬＴの先生方が日本に来て感じた大変さや生活する上での困難さなどについても触れることができると、さらに効果的だと考える。 ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：９３．２%→事業終了時：９５．２% 【児童変容の分析】 自分と異なる立場の相手に対して、自分にできることを進んでしていこうとする力が育ってきた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	全学年・学校行事	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・宇都宮大学川島芳昭教授による講話を聞き、インターネットを安全に使用する上で必要な知識・技能を身に付ける。
実施した内容	・宇都宮大学川島芳昭教授による講話を聞く。 ・LINEなど、文面だけでのやりとりを行う際に、誤解を招かないようにするために気をつけることを知る。 ・SNS上には誤った情報があることを知り、誤った情報に振り回されないようにするにはどうすればよいのか考える。 ・長時間、YouTubeやゲームをすることの危険性について考える。
工夫した点	・情報教育や情報モラルが専門である、宇都宮大学川島芳昭教授を講師として招き、講話や資料の説明をしていただいた。 ・授業参観日に本時を設定することで、保護者の方にも参加していただき、「親子人権教室」として実施した。 ・児童が問題点を指摘したり、友達や家族と話し合ったりする時間を設けるなど、児童が自分事として考えられるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、ＳＮＳとの付き合い方について学習した際に、正しく活用しないと自分も相手も傷付ける可能性があることを深く理解させた。また、情報の発信者として責任をもつことの重要性について考えた。
事業成果	４～６年生（４８名）を対象としたアンケート結果から ・知識的側面：「あなたが知っている「人権問題」を選びましょう」に対し、「インターネットによる人権侵害」と回答した児童の割合 事業開始時：３０．０%→事業終了後：４３．５% 【児童変容の分析】 親子人権教室後の振り返りでは、「相手が嫌な思いをしないように言葉を選ぶことが大切だと分かった。」など、少しの言葉のニュアンスの違いで、相手を不快にさせたり、誤解を招いたりすることがあると気付いた。また、「侮辱罪」や「名誉毀損罪」など、自分自身が加害者になる可能性があることを知ることができた。 ・価値的・態度的側面：「正しいことを行い、良くないことは正そうとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：９７．９% →事業終了間際：９７．９% 【児童変容の分析】 親子人権教室では、情報の発信者として、誤った情報や真偽が定かではない情報を発信しない重要性について考える様子が見られた。 ・技能的側面：「友達や家族の気持ちを考えて生活していますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００% →事業終了間際：９７．２% 【児童変容の分析】 親子人権教室後の振り返りでは、「これからはメッセージを送る前に相手に正しく伝わるか確認してから送りたい。」などの感想が見られ、相手の立場になって考えようとする様子が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	６年・学級活動	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	・相手の性別や見た目、年齢などから無意識に固定的な見方をしていることに気付く。 ・多様な性が認められており、一人一人が自分らしく生きていくためには正しい知識や理解が大切であると理解する。
実施した内容	・ランドセルを例にして、好きな色が性別によって決まるわけではないことを確かめる。 ・LGBTQを説明し、多様な性が認められていることを確かめる。 ・同性婚についてグループで考え、発表する。
工夫した点	・導入に好きな色など身近なことを取り上げ、性別による固定概念があることに気付かせた。 ・自分の好きなことを伝えるだけでなく、相手の好きなことを認めることも大切だと確認した。 ・LGBTQについて知ることで、見た目の特徴だけで判断するべきではないことを確認した。 ・同性婚について考え、現在国内では認められていないものの、海外の一部では認めているなど、世界で注目される人権課題であることを意識させた。また、学校制服が柔軟に選択できるようになったことも、人権課題解消に向けた取組の一つとして紹介した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・各学年、特別の教科　道徳で「個性の伸長」（内容項目Ａ）や「相互理解、寛容」（内容項目Ｂ）の学習をする際、本時で話し合った内容を関連させながら指導を行った。
事業成果	６年生（２１名）を対象としたアンケートから ・知識的側面：「あなたが知っている『人権問題』を選びましょう」に対し、「性的指向・性自認」と回答した児童の割合 事業開始時：３８．２%→事業終了後：８１．０% 【児童変容の分析】 具体的な内容を示したことで児童の理解が深まったと考えられる。身近な人権問題として意識できるよう、継続して取り扱っていきたい。 ・価値的・態度的側面：「相手の話を聞いて、気持ちを理解しようとしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００．０% →事業終了間際：１００．０% 【児童変容の分析】 多様性への理解を深めたことにより、自分の言動が相手の自分らしさを否定することにならないようにしていきたいなどの記述が見られた。 ・技能的側面：「あなたは自分以外の人を大切にしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：１００．０%→事業終了間際：１００．０% 【児童変容の分析】 自分らしく生きることと同様に自分以外の人も尊重していきたいという内容を各グループで伝え合っていた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	栃木県	学校名	那須町立高久小学校

人権課題	その他（災害に伴う人権問題）	対象学年・取り扱った教科等	４年・防災学習	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	・避難所における人権問題について考えることを通して、人権が尊重された避難所生活を送る上で必要な配慮や心掛けを理解することができる。
実施した内容	・段ボールベッドやワンタッチパーテーションなど、実際に避難所で使用する資機材の設営及び体験をする。（１時間） ・「避難所に来る人々」や「避難所にないものや足りないもの」など、避難所のイメージを出し合う。 ・避難所において起こり得る人権問題について考える。 ・それぞれの人権問題について、必要な配慮や心掛けを考える。 （１時間）
工夫した点	・町役場の危機管理係に協力をいただき、実際に体育館で避難所設営を行った。設営したベッドに横になったりワンタッチパーテーションの中に入ったりするなど避難所体験をすることで、避難所のイメージをもちやすくした。 ・避難所において人権問題が起きる可能性の高い人々（高齢者、ペット連れの人、乳児がいる家族など）をあらかじめ示すことで、起こり得る人権問題についてイメージしやすくした。 ・ワークショップ型の活動をすることで、多様な意見が出るようにした。 ・保護者や学校運営協議会の役員にも参加を呼びかけ、児童だけでなく大人も一緒に活動するようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・道徳科の授業で、「相互理解、寛容」（内容項目Ｂ）の学習をする際、本学習を想起させ、お互いを理解し尊重し合うことの大切さを感じさせた。
事業成果	４年生（１７名）を対象としたアンケートから ・知識的側面：「避難所で困る人はどんな人でしょう」に対し、人権侵害を受ける恐れのある立場の人を、具体的に挙げることができた児童の割合 事業開始時：２５．０%→事業終了時：８７．５% 【児童変容の分析】 避難所において人権侵害が起きる可能性の高い人々（高齢者、ペット連れの人、乳児がいる人など）をあらかじめ示したことで、起こり得る人権問題を詳しく理解することができた。 ・価値的・態度的側面：「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、「そう思う」と回答をした児童の割合 事業開始時：６８．８%→事業終了時：７６．５% 【児童変容の分析】 避難所では、困り感を抱く人々が多くいることとその理由を知り、相手の立場に立った思いやりや気遣いが大切だという考えを深めた。 ・技能的側面：「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか」に対し、肯定的な回答をした児童の割合 事業開始時：９３．８%→事業終了時：１００．０% 【児童変容の分析】 授業後の感想では、「大変そうな人がいたら、優しく教えてあげたい。」「困っている人がいたら手伝ってあげたい。」と、困っている人や助けが必要な人に手を差し伸べたいという言動が見られた。その思いが実際の行動につながるように、普段の生活から意識させていきたい。